

柳井商工会議所地域再生委員会との意見交換会 報告書	
開催日時	令和7年6月9日（月） 午後3時30分～午後4時52分
開催場所	柳井商工会館 会議室
テーマ	人口問題に関する提言書素案について
出席委員	副委員長 田中晴美 委員 川崎孝昭 坂ノ井 徳 篠脇丈毅 長友光子 藤沢宏司 三島好雄 欠席 中川隆志 岩田優美
委員外議員	山本達也 平井保彦 平岡実千男
参加者数	商工会議所地域再生委員会委員 8名
主な意見等 ○商工会議所 委員 ●特別委員会 委員	○提言書の項目が8項目にわたり、総花的になっている感じがする。焦点を絞り、実効性のある計画から優先順位を付け、重要度が高いものを集中して進める形をとり、施策の目的、実行する期限、予算、数値目標、効果検証をどのようにするかということを入れてもらいたい。 ○婚活応援課（仮称）の創設に関する提言について、柳井市公認のマッチングアプリを立ち上げて進めてもらいたい。信頼度や安心感が増し、参加率が上がるのではないかなと思う。 ○出産に関する提言について、妊婦の安全な搬送体制の強化や病児保育施設の整備は是非やっていただきたい。また、子どもが1人生まれたら500万円進呈するとか近隣の市町にないインパクトのある施策をすれば即効性がでてくるのではないかな。 ○若者、女性の移住や就職の支援が重要だと思う。外から柳井に来て就職する方に家賃補助を行う試みも必要ではないかなと思う。 ○図書館とか保育施設の利便性をもう少し改善してもらいたい。図書館は受験シーズンの年末年始に閉まっているのを別の時期に休みを設けるといった試みを検討してもらいたい。 ○休日夜間応急診療所は、この年末年始はすぐに診てもらえない状況であった。担当した医師だけではうまくいかない現状があるので行政のほうで何かしらの手を差し伸べてもらいたい。

○「バドミントンのまち柳井」、「野球のまち柳井」などスポーツを基調にした特色のある町にするアイデアを出していただきたい。スポーツ以外も「白壁のまち柳井」の他に「もの」ではない「こと」に特化した、例えば「健康のまち柳井」とか「ごみの落ちていないまち柳井」といった「何々のまち柳井」というキャッチフレーズを元に特色を打ち出せるとまちの魅力が出るのではないかな。

○人口増加、移住定住に関して成功事例の調査を積極的に行ってもらいたい。今年1月に静岡県裾野市と兵庫県相生市へ人口問題特別委員会で視察しているが、どのようなヒントが得られたのかお聞きしたい。

●静岡県裾野市へは、議会からの提言をするという取組が初めてであることから、その提言の仕方についてを、兵庫県相生市へは、子育て支援についてを視察した。

○宮崎県都城市や人口増加に成功した町として注目されている茨城県境町は、ふるさと納税で大きな成果をあげ、財源として活用しており、ふるさと納税の魅力的な返礼品と効果的なPRが柳井市には不可欠ではないかな。

○提言が採用され、実現していく段階においては、デジタルを活用した市民のアンケートを行って効果測定を行いながら進めてもらいたい。

○人口増加であれば市町村合併が視野に入ってくるのではないかな。

○官民学連携の協議会を設立し、それぞれの立場でアイデアを寄せ合うという進め方もあるのではないかな。

○若者や子育て世代の意見を取り入れるために託児施設を設置したイベントとかサークルとかいったカジュアルな意見交換会を行ってはどうか。

○駅の橋上化については、いくらかかるものなのか。その財源はあるのか。

●駅の橋上化は規模によって違うが、大体平均で30億円くらいとあり、3分の1は国道交通省の地域交通確保維持改善事業費補助金、JRが3分の1、地元自治体が3分の1で負担することになっている。これまで南口の開設の要望があったが実現していないことから橋上化はかなり難しいが、敢えて出して、押していつてはどうかと思っている。

○子どもが夜熱を出した時に電話をすると柳井では子どもを診られるところはありませんので、徳山中央病院か岩国医療センターへ行ってくださいと言われる。子育てをする上で重要な問題であり、是非提言に入れていただきたい。

○人口は減るので、その中でどうにかするために行政サービスもダウンサイジングすることを市議会で提言するのであれば、市議会の定数を削減するということを書くべきではないか。

○人口減、子育ての問題の当事者である若い人にどういう状況だったら柳井に住み続けて子育てがしたいか、周囲の人に柳井に来るといいと言いやくなるかをケーバイキングなどを利用してその率直な意見を聞ける場所の設定をしてもらいたいと思う。

○柳井市が全国的に空き家の価格水準が安いと「田舎暮らしの本」という雑誌に載ったことがあったそうで、格好のPR材料だと感じた。いろいろな施策の中でよそと比べて圧倒的に有利な点の発信をたくさんしていただきたいと思う。

○昔は、周りの年配の人が結婚相手を探したり、親も結婚を勧めていたが、今はそういうことがない。結婚したいと思っている方

はたくさんいるので、婚活をもっと地元で、もっと幅広くAIを使うなどの何か手助けをしていくのが、将来、人口が増えていくひとつの大きな関わりとなるのではないかと思います。

●出会いがしたいけれどできない、機会がないというのが現状だと思う。市が専門の婚活応援課というのを2人くらいの体制で作って、マッチングアプリも導入し、考えられる全ての手段を使って推進していかないとなかなか厳しいのではないかとということで提案のひとつにあげている。

○地域の経済の中で活躍されている女性の方はたくさんおり、そういう方で子どもを産んでということになるとそのサポートをしっかりしてあげなければいけない。例えば出産の時に、親元に帰れない場合にヘルパーさんが来て無料でサポートしてくれるとか、働きながら子育てができるということをしっかりみていただきたい。妊娠したとき、出産したときにそれぞれ御祝金をだしたりしたら、柳井に行ったら補助してくれるということで、柳井市で出産しようかなという形になるのではないかと思います。

○県の行政職員でも大学の先生でも良いが、専門家の意見を聞いて柳井の方向性というものを議会と行政と会議所と専門家との4者の協議会で出していくのが良いと思う。

○日本の人口はどんどん減っている。増やそうというのも大切なことだが、減るということも考えて、減ったときにどうするか、そういうこともしっかり考えて柳井のまちを前に進めていただいたらと思う。

○都会に比べると田舎は女性が少ない。女性が柳井市で働きやすい環境を作ることが大事で、企業がちゃんと成り立つためには、柳井市内でお金が好循環で回るということ、特に飲食業の場合は、県外・市外から来ていただかないと成り立たない。白壁のまちもあるが、茶臼山というのは本当に日本で誇れる観光地になると思う。柳井市はおいしい食べ物がいっぱいある。もっと分かりやすい看板にして、観光で50万人をまず目標にノルマをかけ

	て、柳井に来ていただくようになれば、飲食業あるいは土産物も売れると思う。特に観光に関してはPR不足だと思うので市をあげてやっていただきたいと思う。 ○農業については柳井で大規模なほ場整備が終わっており、長方形、正方形の田んぼになっているから機械化がしやすいと思う。今のような世界情勢からすると本当に食べ物が止められたら大変なことになると思うので米の国産化はしていただきたいと思う。 ○林業振興の一環として地産地消であるバイオマス発電の取組を支援すると書いてあるが、市町村でお金を出したところはもう中止していると思うので調べてみてもらいたい。 ○漁業について藻を育てていくということにもお金を出して是非おいしい魚をこの柳井界限、瀬戸内のところで作っていただいて、それを食べに来ていただく人を増やしてもらいたい。 ○柳井は大変季候もいいし農産物はおいしい。都会の人にセカンドハウスとして空き家を直して使っていただくといいと思う。ヨットとモーターボートのつなぐ場所、管理してくれるところがあれば、東京から岩国空港経由で来る方がおられると思う。人口は増えないが、消費は起こるのでいいと思う。 ○子どもをなぜ産まないのか、2人目3人目を考えないのか、そういった声を保育園で子どもを育てている親御さん達の話聞いて欲しいと思う。課題はいろいろとあると思うが、人口増には子どもを増やしていくしかない。物価は今ものすごく高く、恐らく国の補助も増えていくと思うが、例えばチャイルドシートを月500円で行政からレンタルできる補助を行う。話を聞いてそういったところをフォーカスしてもらいたいと思う。 ○娯楽施設、大型店舗、専門店がないという課題があがっており、解決策に娯楽施設、専門店の誘致と書いてあって全く具体性を感じないので、本当にどれをやりたいのかというのが個人的に
--	---

は見えづらかった。提言書案冒頭に書いてあるが相当なる覚悟を持って臨んでいかないと変わらないのではないかとと思っている。

●提言書案中の娯楽施設や専門店の誘致については市民の方からも若い人からも聞いているが、議会からの提言としてこれを出すときにどこかの店を抽出して、ここというふうに指定するのは、なかなかいろいろな影響があるので、御容赦いただけたらと思う。

○5年後までにどうする、10年後どうする、15年後どうするというビジョン、これからの柳井市のありようをきちんと見定めて、その中でどうしても人口を増やしたいから子どものことについて考えよう、それで子どもが遊びやすいところを作ろうとか、子育てに特化してすることを決めたときにいろいろな問題がそこに集まり、その問題の中でできていることを確認し、1個ずつ柱をきちっと建てていかないと、ばらばらになってもったいないと思う。予算の中から何をどこに集中させていくのかを提言できる提言書にすると市や市長さんも考えやすいと思うし、私達の意見の出し方もより効率よくできるのではないと思う。次は是非具体的なことをどうやって行くのかという時間を作っていただきたい。